

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかかわる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	社会福祉法人 自立共生会 グループホーム くわなの宿
(ユニット名)	シャイフクソウジン シリツキョウセイカイ グループホーム クワナヤド
所在地 (県・市町村名)	三重県桑名市新町73番地
記入者名 (管理者)	房前貴子
記入日	平成 20年 4月 18日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	○	引き続き現在の取り組みを続け、職員一人一人が理念の実践に向けて新たな取り組みができるように、管理者と共に話し合い、実践していきたい。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	○	自治会に加入し、地域の清掃活動や行事にも参加している。理解していただいている部分もあるが運営推進会議に自治会長さんにも参加を願い、地域の人々により一層理解を深めて頂けるよう取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	○	職員による働きかけだけでなく、利用者自身も地域の方々との馴染みの関係が築けるよう、気軽に立ち寄っていただけるように町内活動への参加を今以上に積極的に行っていきたい。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	○	今以上に近隣の方々との親睦が深められるように、地域のイベントに引き続き参加し、かつ、事業所で開催するイベントにも来て頂けるように働きかけていきたい。9月から班長になり、班長会にも出席する。時間が合えば利用者も出席し、地元の人々と交流をさらに深めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	月に一回併設のデイサービスで介護予防教室を開いているが、開店休業になっているため、地域の方々にも気軽に立ち寄っていただけるように宣伝や内容を工夫していきたい。ひかりの里と同様に散歩ついでに防犯パトロールを実施し、地域の暮らしに役立つことに取り組んでいる。	○	月に一回の介護予防教室を利用し、地域の方々にも気軽に立ち寄っていただき、地域に貢献できることはないかお聞きし、取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価研修へ積極的に参加し、研修報告書が誰でも閲覧できる。内部評価の勉強会も開いた。職員全員が内部評価を実施した。	○	内部評価を実施し、意義を理解し、これから外部評価についてミーティングを開き、具体的な改善に取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開設して8ヶ月目、市の方針により3ヶ月に1回運営推進会議開催のため、現段階ではまだ2回の開催である。法人理念や取組についても運営推進会議で話し合い、サービスの向上に取り組んでいる。	○	外部評価は今回初めてであり、次回の運営推進会議で報告し、意見を聞き、サービス向上に活かす予定である。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者とはウェルネスグループとして会う機会も多く、市に相談員の設置や派遣の要望や自立共生会家族会の主催の介護予防・健康教室の開催など相談をしてきた。	○	運営推進会議などとおして事業所の考え方を理解していただき、課題解決に向けて市町村担当者と協議しながら一緒に取り組み、さらなるサービス提供向上に取り組んでいきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	平成18年度に新西方で市職員に来ていただき、成年後見人制度について家族会、地域住民、職員が参加し勉強会を実施し、支援してきた。	○	くわなの宿ではしていないので、条件を整えば地域に呼びかけ成年後見人の講習会を実施したい。また、必要な人が現れれば活用し、支援していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	デイサービスの情報公表でもあるように身体拘束0への取り組みを実施し、防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際には、予め日時を決めて十分な説明ができるように努めている。また、利用者や家族が不安や疑問点を聞きやすいように、和やかな雰囲気、十分な説明を行い、理解・納得しやすいように努めている。</p>	<p>○</p> <p>契約当日に十分な説明ができるように、事前の問い合わせの段階で利用者や家族の不安や疑問点を聞く等の配慮を定着させていきたい。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日々の生活の中で出た利用者の意見、不満、苦情についての情報は職員、管理者が日報や申し送りなどで共有し、改善に取り組んでいる。運営推進会議では毎月違った利用者の出席を促し、外部への発信の機会を設けている。</p>	<p>○</p> <p>利用者が職員には言えない様な意見や、不満、苦情などについても表せるように、傾聴ボランティアなどの受け入れも視野に入れて取り組んでいきたい。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月お便りを郵送しており、暮らしぶりを報告している。金銭管理についても、明確にしたものを郵送により報告し署名していただいている。職員の異動については、面会に来られた際に直接説明している。</p>	<p>○</p> <p>ご家族への報告は今後も継続していくが、ご家族の立場に立った情報が伝えていけるように、工夫していきたい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情受付担当者が電話対応するほか、事業所内に「ご意見箱」を設置している。また、運営推進会議には毎回違うご家族に出席していただき、意見を頂き運営に反映させている。</p>	<p>○</p> <p>事業所内の「ご意見箱」をもう少し活用していきたい。記入しやすい環境作りの工夫に取り組む。また、アンケートをし、意見を言いやすいようにしている。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員の意見を毎月「気づきメモ」と言う形で運営者に伝わる仕組みがあり運営に反映されている。返答が明確になっていない時もあるので改善していきたい。</p>	<p>○</p> <p>事前に職員からの気づきメモを集計し、月一回のミーティング時に明確な解決や回答ができる体制を作ってきたい。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>その都度職員間で話し合い、運営者に了解を得、柔軟に勤務変更をしている。</p>	<p>○</p> <p>これからも職員の健康に配慮した勤務表を作成し、緊急時には、より柔軟な対応ができるよう職員関係のよさをこれからも継続できるようにしていきたい。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>家庭の事情による職員の退職のため、職員の異動が生じた。引継ぎを行い、利用者へのダメージや外部との関わりにも影響が生じないように配慮している。</p>	<p>○</p> <p>職員教育を今以上に充実させ、利用者のダメージにならないよう努力していきたい。また、職員教育やセンター方式の記録の充実を図り、職員の移動の際は、利用者へのダメージが最小限になるように配慮していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のキャリアや能力に応じた研修参加を促している。また、研修報告をいつでも閲覧できるようにすることで、研修に行っていない職員も情報を共有することができる。また、研修報告をグループ内勉強会などで発表している。	○	教育研修委員会を設け、定期的な勉強会や知識向上に努めている。職員の勤務体制を考慮し、研修参加ができるように配慮していきたい。また、施設内外研修に加え、三重県グループホーム連絡協議会の研修、施設見学などもこれからも続けていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県グループホーム連絡協議会で書記を引き受ける事になり、他の事業所との情報交換、ネットワーク作りを積極的に進め、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	○	三重県グループホーム連絡協議会での役割を通して、他の事業所と相互訪問や研修なども行っていく予定である。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩室には布団を用意し、短い時間でも体と心を休めるようにしている。また、状況を見て話す機会を持ち、仕事やストレスの抱え込みにならないように、グループ全体で支え、ストレス軽減や環境づくりに取り組んでいる。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	月間報告書類に各職員が時間外に行った仕事や委員会活動などを記入し、運営者へ提出している。また、その結果を各職員の努力の成果として賞与や努力手当などに反映している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談があった時点から本人の状況を聴き、困っていること、不安なこと、求めていることなどを一緒に考えてサポートしていく関係を築くように努めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談があった時点から本人の状況を聴き、困っていること、不安なこと、求めていることなどを一緒に考えてサポートしていく関係を築くように努めている。電話による相談のほか、場合によっては関係スタッフ出席の下、話し合いの場を持ち、受け止めるように努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に良くお聞きし、求めておられることが支援できるかどうか相談し、必要な支援を提供できるよう努めている。	○	必要なサービス紹介が分かりやすい形で行えるように、他施設の情報把握や同グループの他職種などとの連携も図っていきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前訪問や、見学に来ていただき、話をするようにしている。また、雰囲気等を体感していただくためにも日中の体験利用や、デイサービス利用から利用を開始することなど、家族と相談し工夫している。	○	段階的な支援の例を書面にしてわかりやすく説明出来るようにする等、対応の工夫をしていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にもかかわらず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中、人生の先輩として様々なことを教わりながら一緒に過ごし、支えあう関係を築いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にもかかわらず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	年末の掃除や餅つき、春の集い、行事の際にはご家族の参加を呼びかけ、一緒に楽しく参加していただいている。運営推進委員会や春の集いをとおし、一緒に本人を支えていく働きかけをしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	それぞれのご家庭の事情を考慮しつつも、落ち着いたご本人様と共に過ごし、両方からのお話をお聞きし、より良い関係であるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一部の利用者は昔なじみの方の面会や外出などがある。一方、家族以外の面会が少ない方もいる。来て頂いた時は居心地の良いよう支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者間の人間関係は把握できている。関わり合いの中で何かあるときは職員が間に入る等して良い関係を続けられるよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在、該当する方がいません。一名死亡。その方以外退去者なしです。	○	該当者が現れたら、家族への行事案内等をおし、状況をお聞きし、関係を断ち切らない付き合いを大切にしていきたい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の過ごしやすい環境が実現できるよう心がけている。また、環境整備に関しては声掛けをしたり、センター方式を活用し、ご本人の希望や意向を把握し、本人本位の支援に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のシートを使用し、生活暦やなじみのもの、昔の出来事、これまでのサービスなどの把握に努めている。	○	月に1回のカンファレンス時に利用者の内3名ずつクローズアップし、職員間の情報の共有の充実をさらに図っていききたい。センター方式を全職員で記入し、お一人お一人を大切にしている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一日の過ごし方は日報や個人記録を通して把握している。心身状態に関しても日報や、往診用の療養シート記録などから把握するよう努めている。	○	職員一人一人の把握にずれが生じないようにカンファレンス時に確認していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に一回のカンファレンスを行い、意見を出し合っている。また、ケアプラン作成前に家族へ便りを送り、意見を求めるほか、日報に書かれた利用者一人一人の言動や往診記録も反映したケアプランを作成している。	○	サービス計画作成前に、改めて本人への聞き取りを実施し、更に本人本位の計画になるよう努めたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に一回のカンファレンスで利用者の変化は話し合い、計画に反映させている。また、往診の医師や家族との情報交換により、現状に即した介護計画を作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や日報に書き残し、スタッフがいつでも閲覧できるようにしている。また、日々の変化は申し送り等で気づき・注意点の情報を共有している。日報は、スタッフが確実に目を通すように確認サインをすしている。介護計画の見直しにもいかしている。	○	個人記録をスタッフ全員が確実に読み内容を把握しているかチェック体制を改善していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の要望に応じた買い物や外出などを行い支援している。	○	利用者の要望や意見に今以上に耳を傾け、人員が許せば、更に幅広いサービスを柔軟に提供できるようにしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	毎日のレクリエーションとして、地域で活躍されているボランティアの方や、近所の寺の住職の方による法話、町内の草むしりや小学校の社会見学としての受け入れや訪問交流も行い、いろいろな方々と協力しながら支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	同グループのケアマネジャーと話し合い、必要に応じて検討する事はあるが、現在のところその結果、他のサービスを利用した例はない。	○	必要あれば他のサービスを利用する事も支援していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議への出席や併設のデイサービスの営業等で関わりを持っている。	○	地域包括支援センターと総括的かつ長期的ケアマネジメント等の具体的な協働例について教えていただき、実践していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の主治医の往診、月に2回の内科医の往診を実施している。 歯科や眼科に関しては必要時個々のかかりつけ医へ受診していただいている。初診に関しては主治医から紹介状を送り、適切な医療を受けられるよう支援している。		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じて、グループ内非常勤医師(認知症専門医)のもの忘れ外来に受診している。また、認知症にも詳しい主治医にも往診していただき、利用者を支援している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	24時間看護連携をしているウエルネス医療クリニック看護師に日常的に健康状態の変化など電話相談しながら、日常の健康管理や医療面の支援をしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	連携診療所と情報交換・相談に努めている。早期に退院できるよう関係者と情報交換をし連携している。	○	他の病院に入院した方はいないが、どの病院の入院の場合にも連携をとり、情報交換・早期退院に向けた対応に努めたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	心筋梗塞による死亡1例あります。常時医療的管理下におかなくても良い場合にターミナルを受け入れます。利用者の状態変化に伴い、家族・医師と連絡相談しながら行っている。	○	利用者や家族の意向の変化はないか要介護認定更新の際に確認を行い、周知するよう努めていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度や終末期の利用は今のところいませんが、今後そういう場合においても、日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援していきたい。センター方式を利用しひかりの里と同程度のことが出来るように利用者の状態に合わせ準備をしている。	○	状態が変化した後でも、その状況に合ったその人らしさを追求できるように、職員間の話し合いや、家族・主治医・看護職員との相談の上対応をしていきたい。また、事業所の「できること・できないこと」を文書で明確にしていきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	別の居所へ移り住んだ例がない。	○	住み替えの際は、センター方式のご本人の情報を関係者間で共有し、ダメージ防止に努めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	センター方式を利用し、一人ひとりの排泄パターンを把握し、支援している。リハビリパンツやパットの使用頻度の削減にも心がけ、職員間の情報統一を図っている。オムツは必ずの勉強会にも参加予定である。	○	これからもセンター方式を用い、利用者一人ひとり排泄パターンを把握し、リハパンの使用を減らし利用者全員が、トイレにて排泄できるようこれからも支援していきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	必ず本人の意思を確認した上で気持ち良く入浴していただくよう努めている。また、一人ひとり入浴したい時間を把握し、支援している。	○	入浴剤や季節の物を使用し、日替わりのお湯を楽しんでいただきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その時々、居室やソファなどへ声掛けや希望をお聞きし支援している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	センター方式のシートを使用し、生活歴やなじみのもの、昔の出来事など把握に努め、生活支援に反映できるように心がけて支援にあたっている。また、様々な活動や働きかけによってどのようなやり取りがあったかを記録を通して職員間の情報の共有により、一人ひとりの利用者が喜びや張りの有る生活ができるよう取り組んでいる。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方に対しては、定期的に金銭の所持をしていただいているものの、ほとんどの方は、事業所が管理している。ただし、週に1回の買い物では、御本人様がお金を持って支払っていただくよう支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員の配置上、一人ひとりの希望時間希望場所という訳にいかず、全員または希望者で外出することになる。天気の良い日は機能訓練をかねた散歩や買い物等を実施している。	○	職員の配置状況が可能な時には、利用者の要望に応じて可能かどうかを見極め、ご家族様のご協力を得て好きなところにいけるよう支援していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	定期的な外出支援を行っている。個別・他の利用者・家族とさまざまな形で実施している。また、場合によっては利用者の方々から声を頂くようにもし、支援している。	○	出来る限り月に一回は普段いけない場所へのこれからも外出支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問していただいた際には、ゆっくりと過ごしてもらえよう、居心地が良いよう工夫している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアは日頃から実施し、万が一そうせざるを得ない場合は記録に残すこととなっている。	○	新人職員対称に勉強会等を実施したい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。ただし、施錠することで安全が確保される場合は記録(報告も含む)を残し、施錠を行う場合がある。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	一人ひとりの行動パターンを把握し、事故がないように努めている。共有スペースにいない利用者には定期的に居室へ声を掛けに行くなどして所在及び様子確認している。また、必要に応じて職員間でも声掛けを通して利用者の所在や様子を伝え合い、安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	環境整備や巡視等とおして、注意が必要な物品確認をし、安全管理に取り組んでいる。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	色々なリスクに対する事故防止対策は、日頃から重要視しており、ヒヤリハットを記入するよう努めている。一人ひとりの状態に応じた事故対策についてミーティングで話しあい、事故防止に取り組んでいる。	○	定期的な勉強会をこれからも実施し、応急処置などの実技を周知していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	平成18年自立共生会として消防署に来ていただき救急処置の勉強会を実施した。現在、新人が多いため、急変対応に関する勉強会を及び訓練を早急に実施したい。	○	全職員が対応出来るように訓練計画を立て、実行していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員による災害対策の訓練を実施した。ただし、地域の人々への協力体制については次回の運営推進会議で話し合うことになっている。	○	町内の民生児童委員に災害について地域の状況を教えていただくとともに、互いに何が出来るか次回の運営推進会議で話し合いたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	転倒のリスクについてアンケートを実施した。事業所の方針としてできるだけ御本人の意志で出来るだけ動いていただきたい。拘束より、転倒にならないよう散歩などの機能訓練を充実したいので、ご家族様にも外出支援にご協力してほしいことを伝え、話し合っている。	○	ご家族の面会時などには日頃の様子を伝える事はもちろんのこと、日々のリスクについてもこれからも話し合っていきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者の変化や気づきは職員間で声を掛け合い、記録に残し、申し送り等で情報を共有し、対応に結び付けている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者が使用している薬の内容をファイリングし、いつでも見れる状態にしている。服薬の支援や症状の変化について記録に残し、服薬支援と症状の変化の確認に努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	各利用者の排便を理解している。便秘予防の為に散歩や体操等で体を動かし、水分を取り、食事では野菜などの食物繊維の多いもの献立に入れるなど管理栄養士が配慮し、全職員で取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	声掛けや誘導により歯磨きなど口腔ケアは習慣となり、一人ひとりについて支援している。	○	グループ内の歯科衛生士に見ていただき、年に一回口腔ケアの指導を受けていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の栄養に関しては、管理栄養士がメニューを作成している。食事、水分摂取量は個人記録に量を記入し、摂取量の傾向観察に役立て、場合によってはゼリー等を使用し、食事や水分の支援をしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルがあり、勉強会やミーティングを通して意識統一を行っている。	○	模擬体験を行う等して、定期的な感染対策の周知を図りたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理の際には賞味期限を確認している。また、台所を含め、調理用具の消毒も実施し、食中毒予防管理に努めている。	○	時期による感染症対策の勉強会等をその都度実施していきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りにはプランターの花を置き、感じの良い雰囲気作りをしている。また、玄関前にパンフレットの貼り出しを行い、事業所の取り組みなどが分かるように工夫している。	○	玄関周囲は電気の関係上暗くなってしまう為、改善していきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースでのTV音量や室温・光などは気をつけて設定しており、さらに、利用者の声に応じて対応している。壁面には季節に応じたレクリエーションで作成した絵や折り紙などの作品を飾り、居心地良く過ごせるよう工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースの中にはソファが設置してある為、気の合った利用者同士が過ごせる状態にある。1人掛けのソファもあるため、居心地の良いところへ移動して使用することも可能であり、それぞれの思い思いの場所で過ごせるよう工夫している。	○	日々の生活の中で、一人ひとりの利用者の好む場所を発見して、柔軟に対応していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	スペースの確保に気をつけながら、必要と思われるものは利用者の意向を聞き、御本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝の換気を行っている。また、夕方居室に帰られる前には室温に注意してエアコンを使用したり加湿器を使用する等利用者の状況に応じてこまめに行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要などころに手すりを設置し、見守りで移動が出来るようにしている。居室環境も利用者の身体状況に応じてベッドの高さや箆箆・ハンガー架けなどを利用者と相談し設置し、自立した生活が送れるよう工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの得意分野等をスタッフ間の話し合いや利用者とのかわり、アセスメントから見出し、出来ることを見極め、役割を持って自立して暮らせるよう工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダには布団を干せるようになっている。また、1Fの畑への出入りも自由に出来、ちょっとした花や野菜を植え、楽しんで活動できるようベランダや畑、かまどを活用している。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

デイサービス（地域支援含む）や児童クラブも併設しており、幼児、学童期の子ども達、職員も含め三世代から四世代の交流が出来ます。法人理念”お年寄りの底力を社会に生かす”を実践するため、お年寄りの昔取った杵柄（かまどでのご飯炊き、門松作り、お料理、おやつ作り等等）を子ども達や職員に教えていただくことをしています。地域支援の子ども達との交流もしており、親御さんから自分からお手伝いをするように大きく成長したと喜ばれています。同法人のグループホームひかりの里と同様に、散歩ついでに防犯パトロールも実施しています。地域の中で普通に地域住民として、その人らしい普通の生活が送れるよう職員一同努めております。